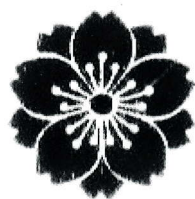


富士山下宮



小室浅間神社

由緒書き

御祭神

このはなさくやひめのみこと
木花開耶姫命

○御由緒

人皇第三十代桓武天皇の延暦十二年、征夷大將軍坂上田村麿東征の折り、此の地より遙かに秀麗なる富士の山容を拝し戦捷を祈請、四年にして大勝。その神護を謝し大同二年（皇紀一四六七年・西暦八〇七年）社殿を創祀。県下二番目の別表神社列挙の由緒ある神社である。

当神社の社号は幕末まで「下宮浅間・富士下宮浅間宮」と呼称されていたが、明治期に入り現在の小室浅間神社と改称される様になった。

また、当社の位置付けは「富士郡大宮浅間ト同時宮建ニテ大同二年草創。上浅間ハ富士山御室、下浅間ハ当村鎮座云々」（甲斐国社寺記）

「此ノ社古ヘ上下吉田及ビ松山三村ノ産子ナリ後千各ミ一祠ヲ立テ祭ル今モ猶上吉田ニハ子生マレテ百日ノ後社参スルニ先ズ下宮ニ参詣ス」（甲斐国志）

とあり、上吉田地区、松山地区、下吉田の三村を含む総産土大神である。



○御更衣祭

往古より六〇年に一度、御神体である木花開耶姫命のお着物をお召し替え戴く特殊神事がある。前回は二〇一〇年（平成二十二年）次回は二〇七〇年を予定をしている。

○例大祭流鏑馬祭り



に残っている。

この流鏑馬祭りは富士吉田市民俗無形文化財に指定されており、一般に知られている武士の流鏑馬や、他神社等に奉納されるものと異なり、九月一日に斎行される初馬揃え式から始まる多数の祭儀と共に、奉納者は一週間に及ぶ「切火」と呼ばれる厳しい潔斎（世間日常を離れ奉納者として心身を清浄にする為籠もる事）と、

九月十九日に斎行されるこの祭りはかつて、富士山二合目鎮座の御室浅間神社の近く騷ヶ馬場で行われており、勝山村と共に奉納されていたがその都度村間の争いが激しく、享禄三年（皇紀二一九〇年・西暦一五三〇年）武田家臣板垣信賢の達しにより、各自の村で行われる様になった。その後、馬場は再三に渡り馬場の変遷があり、現在の馬場は明治初年頃からと伝えられる。古の時代のままに、朝夕役馬、山王様と云われる騎者等の古式が今



特に馬の馳せた足跡による吉凶の「馬蹄占い」は世襲の「占人」の存在と共にこの神事を著名なものにしている。

毎年、流鏑馬祭り終わると氏子区域各町内それぞれに神職を招き、流鏑馬祭りでの「馬蹄占い」の結果を元に「お日待・秋葉講」と呼ばれる祭儀を行う。町内各家庭は御祈願の後に、神職より一枚小さな紙垂を戴き、火事や争い事などの災いが無く無事に過ごせる様祈願する行事が続く。このお祭りは、日本で唯一富士北麓の歴史文化を今に伝え、文化的源流を持つ貴重な祭りである。

○筒粥神事

正月十四日宵から十五日晩にかけて行われる筒粥神事は、筒粥による占事祭儀で、年間の五穀豊凶、天候、養蚕、道者（富士山登山者）の状況が予見される。

特に道者（江戸を含め六県からの登山者数）の占いは、当神社が往古より富士北口信仰の中心にあり、富士山に登る人の数によって里が潤う事を予見する。

また、旧社殿前には湧々と湧き出る霊水により、登山者は心身を清め、祈願して富士登拝をしたと伝えられている。「富士山北口の登山道一円（沿線）の総鎮守の社」である事がその占いにより証明される。代々世襲の「占人」奉仕者が一族を引き連れての奉仕は、他に例を見ないと言われる。

県立博物館「かいじあむ」の常設展示、その光景を体験する事が出来る。



○大塔宮桂之古蹟

本殿右側に聳える御神木「桂」の老樹は富士吉田市指定天然記念物である。南北朝時代鎌倉で討たれた大塔宮護良親王の首級を雛鶴姫が持つて落ち延び、この樹の根本に葬ったと伝えられる。

雄株で幹根の境の周囲十三メートル三〇センチ、根本より十幹に分岐し、各々の目通り幹囲は四メートル四十二センチ、二メートル三十六センチ、二メートル三十一センチである。

その他、神社には幹囲四メートル六十四センチ、四メートル五十三センチ、三メートル九十一センチ、三メートル十四センチなど合計六本の桂の木がある。(山梨県名木集)五月十日には桂樹祭が斎行され、御神木の永遠の繁茂と親王の神霊の鎮護を祈願している。



○室宮恵比寿神社

或る日、篤信人の霊夢に富士山北口の下宮産土神社恵比寿大黒像が現れ、「吾は隆昌の運を支えるのぼり恵比寿なるぞ。富士に

向かって祀れ。吾前に額き縁の靈力を背負い、富士に向かう者の運を開く時は瞠目に値するぞ」とお告げ在りし故、摂津國西宮より勧請し、社宝尾形光琳色彩の恵比寿大黒像を室宮恵比寿と称え申し上げ御奉斎してある。
毎年十一月十九・二十日に宵宮、例大祭を斎行し、御縁銭を授与している。
この御縁銭は「財宝は限りなく湧き出て、開運は泉の如くに尽きる事なし」と、恵比寿神との関わり、縁を語る印とされる。

お参りは

富士山下宮 小室浅間神社

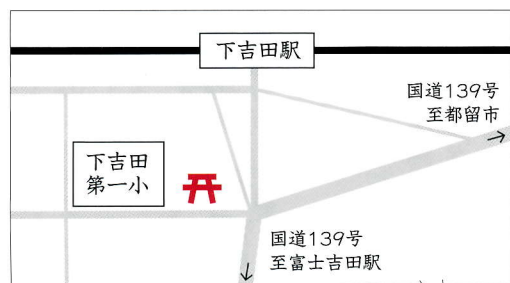
住 所：山梨県富士吉田市下吉田5221

電 話：0555-22-1025

メー ル：fuji-simomiyasenngen@fgo.jp

交通手段：

- ・電 車 富士急行線下吉田駅下車徒歩3分
- ・自動車 中央道都留ICから国道139号
富士吉田方面 約30分
中央道河口湖ICから 約15分



○神馬社と御神馬
木花咲耶姫命の乗り物の白馬の像と、神社で飼育していた歴代神馬御霊を合わせお祀りしている。また、昔は各家で馬を飼食しており、その馬に感謝すると共に、その御霊慰める為に建立された。当社では流鏝馬祭りの保存と、また馬の祭り（体験乗馬）を通し、子供たちに良い経験になるのよう神馬を飼育している。



○富士山溶岩流の原形
社殿裏にある富士山溶岩流の原形。昔は此の北麓周辺、各場所で見える事が出来たが、現在ではここで見える事が出来ない貴重な物となっている。